

## はじめに

現在の葬儀についてそして生きるための死に方ということで本日はご講演をさせていただきます。まず、私は承知の通り株式会社ライフネットの常務取締役です。会社は平成12年に有限会社岩見沢冠婚葬祭互助会と有限会社岩見沢公益社が合併し現在のようになっています。私ども葬祭業では、労働省認定の葬祭ディレクターという資格がありまして、1級葬祭ディレクターは平成15年度までで、全国で5928名、北海道では約400名が所得しています。

2級葬祭ディレクターは、全国で4498名、北海道約200名です。岩見沢市内では両方併せて現在、4名が所得しています。しかしながら、医師免許のように資格が無ければ診察できないのではなく、資格が無くてもどなたでも、この業界に参入することは出来ます。現在市内では8社が葬祭業を営んでおります。

平成14年1月現在の人口の統計ですが、出生が27秒に1人、年間1,175,000人が生まれているのに対して、ご逝去される方が39秒に1人、年間968,000人が亡くなられています。その中で自殺者が40,000人、交通事故40,000人で死亡率は上昇傾向にあります。国の統計調査では平成34年に人口のピークを迎え、その後約20年~30年で日本の人口は1億2000万人から約8,000万人になるだろうと推測しています。

さて本題に入りますが、皆さんの宗派は何でしょうか。日本では仏教徒8割、神徒1割、基督教徒0.5割であります。仏教宗派は、日本仏教連合会で加盟しているのが13宗56派です。・法相宗・華嚴宗・律宗・天台宗・真言宗・融通念仏宗・浄土宗・浄土真宗・臨済宗・曹洞宗・黄檗宗・日蓮宗・時宗です。他に岩見沢では日蓮正宗、法華宗等があります。

死んだらどうなるのでしょうか。肉体はなくなる、灰になる。心、魂は存在すると考えられる、もしくは存在してほしいと願うものです。仏教の中で、浄土宗、浄土真宗では、お浄土の世界へ、禅宗、真言宗では仏様になるとの考えです。神徒では、神に帰依する。基督教徒では、天に召されるという考えです。

## 一般的な葬儀費用について

なぜ宗教が存在するか。魂は生きているという全ての宗教の考えがあります。逆に人は弱い生き物であり死の恐怖があるため宗教にすがります。葬儀は、北海道でも昔は自宅葬が主流でした。日本では現在でも約5割が自宅葬です。北海道では寒さもありましてご会葬者に外でお待ちいただくのは忍びないということでお寺、自治会館などでの葬儀が支流となり、その後斎場葬に移行していきましたが、最近では、地味婚のように地味葬という言葉も出てきまして、自宅葬、家族葬なども増えてきました。

葬儀費用については、全国消費者センタで調べた平均費用は、日本が340万円、札幌が280万円、岩見沢では160万円です。この金額の差は、慣習の違い等によるものです。岩見沢

市内では、一般的に2日間の葬儀総費用は約120万円～200万円といわれております。年々費用は下がりつつある傾向にあります。

私ども葬儀社へは、約40万円～100万円(祭壇・御棺・霊柩車・香典返し等です) 仕出し店へは、約20万円～40万円(飲食・引物等です) 雑費として約10万円～20万円(夜具・会場使用料・集合写真・火葬料等です) そして最後に宗教者へのお礼、仏教でいうお布施、院号料ですね。

皆様のご質問の中でよく、葬儀費用最低でいくらかかりますかと問われます。皆さんはどうでしょうか?どのくらいだと思います?私がお答えしているのは、16万7000円ですとお答えしています。

これは、実際には平成14年度岩見沢市における生活保護世帯に対しての、最高給付額でして、市の考えとしてはこの金額内で2日間の葬儀を執り行ってくださいということです。この場合には私どもも赤字ではありますが、なるべくこの金額に収まるように施行をさせていただいています。

### **一般的な葬儀費用について**

一般的には、私どもでは祭壇金額、祭壇の段とお花、幕飾りを併せて1万円、3万円、5万円、10万円、15万円、20万円、25万円、30万円、35万円、40万円、50万円、60万円、80万円、100万円と上限は限りなくお飾りをすることができます。その他にかかります費用が、お棺、お骨箱、霊柩車、ご遺体搬送、遺影写真等含めて約25万円から約30万円です。

それプラス香典のお返し、返礼品が使用した分というのが葬具代金です。返礼品は岩見沢では300円から500円程度のものがまだ一般的でしょうか。こちらは余りましたら引き取りますので、使用した分ということになります。祭壇料、諸経費、返礼品を併せて葬具代金となるのが一般的です。

そして、最近ですと仕出し店に発注することが多いのですが、皆様の食事、通夜の夕食、通夜ぶるまい、朝食、火葬場での昼食、忌中の引物、飲み物、茶菓等が仕出し店への一般的な費用となります。その他にかかりますのが、式場使用料、夜具、火葬料、有料死亡告知(新聞黒枠、IHK)などがかります。それと宗教者へのお礼ですね。これらを全てまとめて葬儀費用となります。

実際に160万円と聞いて、高いと思われましたでしょうか。それとも安いと思われましたでしょうか。実際に、大切な人を亡くされて気が動転している中で2日間、3日間の中で、ばたばたと決めてしまったのでは、後から落ち着いて考えると高かったなって感じる方が少なくはないのでしょうか。もしくは、もう少しこうしてやりたかった、この部分を詳しく教えてほしかった等様々な疑問や、心残りが出てくるのではないのでしょうか?

### **自身の葬儀をどう考えるか**

これからは、自分のご葬儀、そして自分の大切な人のご葬儀は生前にご家族と話し合われて決めておくことも必要なのではないでしょうか？自分自身の中でどのようなご葬儀をされたいのか、ご家族だけで暖かく見送られたいのか、多くの人に集まってもらって盛大に見送られたいのか、祭壇に興味のものをいかせないのか、沢山の思い出のお写真を皆様にお見せすることはできないのか、生前の生の声を皆様にお聞かせすることはできないのか等など、様々な思いがあるのではないのでしょうか。

亡くなりましたら、声にはだせません、自分の気持ちは伝わりません。ご家族に縁起でもないと言われるかもしれません。でも、人は必ずいつかは死ぬのです。死について、そして葬儀について真剣に考えることも必要なのだと思います。また、できることであれば、葬儀社に出向いていただいて、もしくはお電話でも結構ですので、皆さんの希望をかなえるには、どのくらいの費用がかかるのか事前に相談してみてください。

先ほど岩見沢には8社葬儀社があるといいましたが、何社かで見積もりを取って、願いの叶う、相談ののってくれる葬儀社を選定してください。そうすることによって、この葬儀費用が皆様の納得のいくものになるのです。ス・パ・で大根一本買うのにも皆様は真剣に考えますよね。

もちろん、車を買われるときにも、お家をリホ・ムするときにも、何ヶ月も考えられて決断されると思います。自分の一生の中で最大のセレモニ・といっても過言ではないご葬儀、自分自身では見ることはできないけれども自分自身が、そしてご家族が納得のいく葬儀をされてはいかがでしょうか。繰り返しますが、そのためには生前の予約が必要となるのです。

### **焼香・玉串拝礼・献花の仕方**

もう少しお時間がございますので、ここで、皆さんは、よくお参りにいかれるかと思しますので、焼香の仕方等についてご説明いたします。岩見沢にあるお寺の宗派のみ説明します。真言宗は、岩見沢で3家寺です。通常3回、お香を額に戴いてご焼香します。浄土宗では1回から3回です。1回2回3回と全てに意味があります。

臨済宗が1回お香を額に戴いてご焼香します。曹洞宗が2回1回目はお香を額に戴いてご焼香します。2回目は戴かずにご焼香します。浄土真宗では、大谷派、東本願寺派、俗にお東といわれる宗派が戴かずに2回、本願寺派、高田派、仏光寺派、俗にお西といわれる宗派が戴かずに1回です。日蓮宗が全てお香を額に戴いて3回ご焼香します。

次に玉串拝礼の仕方ですが、通常は玉串を頂くときに右手が茎、左手に葉が来るように頂きます。最初、神前にて玉串を目の高さまで捧げて1礼し玉串の茎を自分の方に向け、手を持ち替え

て時計回りに反転させます。茎を神前に向けて捧げます。その後、岩見沢神社、宗忠神社、御巖神社は二礼二拍手一礼をします。この際の拍手はしのび手といいまして音を立てずに二拍手します。また、ご遺骨になられてからの拍手は音を立てます。天理教等では玉串の捧げ方は一緒ですが、その後四拍手 1 礼を 2 回繰り返します。

次に、献花の仕方なのですが、献花というのは、日本で生まれた風習でして、本来欧米諸国では、土葬の際、埋める前に、皆さんでお花を捧げたのが始まりです。献花は心をこめて、茎の方を祭壇に向けて捧げます。

実際に良くある質問ですが、自分の宗派でご焼香するか、故人の宗派に合わせて焼香するかということをよく耳にします。あくまでも個人的な意見ですけど、できることなら故人の宗派に合わせてご焼香をしていただきたいと思います。

なかなか葬儀式場で祭壇を見て、お位牌を見て、何宗かなというのは難しいかもしれませんが、できれば併せていただきたいと考えます。現に神徒の場合では、そのお家に合わせて玉串拝礼されますよね。同じことだと思います。

### **安楽死、散骨について**

次に、安楽死という言葉聞いたことがあるでしょうか。安楽死は、まだまだ日本では認められておりませんが、尊厳死は認められるようになりました。末期患者に対して、ご本人、もしくは家族の了解があれば、無理に薬を投与し、延命処置は取らないということです。自然葬という言葉があるように、最後は自然に眠るようにというのもお気持ちの一つかも知れません。

また、皆さんはアイ、腎バンク登録されていますか。ドナーカードはお持ちですか。出来ることであれば、登録していただき、意思表示を啓示し、必要としている方のお役に立っていただければと思います。

次に、散骨ですが刑法 190 条では、死体、遺骨、遺髪又は棺内に蔵置し足る物を損壊、遺棄又は領得したる者は 3 年以下の懲役に処す。とありますが、刑法 190 条の法益は「社会的風俗としての宗教感情」とされ、節度を持って葬送の目的をもって行われれば（散骨は）違法ではないという解釈が有力とされています。

しかしながら、人骨とわかる状態で散骨されることは遺棄に繋がる恐れもあります。自分の私有地であればかまわないのですが、他人の土地や国有林に散骨されるには了解が必要となりますが、お骨を 2 mm ぐらいまで細かく砕き遺灰として全部ではなく少々を思い出の場所などに散骨されることは吝かではないと思います。海洋葬として海へ、宇宙葬として宇宙へ様々な方法があります。

## おわりに

長ながと、つたないお話を聞いていただいて誠にありがとうございます。  
最後に、私からこの言葉を伝えて本日の講演を終わらせていただきます。

四苦八苦、ご存知の方もいらしゃると思いますが、四苦とは、仏教でいう人間として生まれた以上、さけることの出来ないこの世の苦しみを表しています。四苦とはただ生きているだけで味わう基本的な苦しみのことで、生老病死の4つをいいます。この世に生まれること、老いること、病気になること、死ぬことが、人間に課せられた必然的な痛みというわけです。

四苦に、さらに精神的な痛みを加えてものが八苦です。その4つとは愛別離苦（あいべつりく）愛する人と別れる痛み、怨憎会苦（おんぞうえく）いやなものや嫌いな人とつき合わなければならぬ痛み、求不得苦（ぐふとっく）欲しいものが手に入らぬ痛み、五蘊盛苦（ごうんじょうく）心身の欲望をコントロールできないことから生じる痛みです。

私たちの悩みや、痛みはいずれもこの8つのいずれかにあてはまります。人は壁にぶちあたると、わけもわからずもがき苦しみますが、まずはその内容を見極めることこそが痛みから脱する1歩となるのです。

以上です。ありがとうございました。

本文は、平成15年2月にお話しをさせて頂いた講演を基に一部加筆修正を加え掲載しております。